

- ▶ 山口の天気
[各地の天気]
- ▶ ニュース
- ▶ 朝日懇話会やまぐち
- ▶ 企画特集
- ▶ 高校野球
- ▶ 読者の広場
- ▶ 朝日新聞社のイベント
- ▶ 朝日さんさん広場
- ▶ 地域の取材網



企画特集

[長州ファイブの挑戦 新時代を求めて]

④山尾庸三／水族館に生きる造船技術

水槽の流れや温度 自由自在
当時の最新工学 形変え幅広く応用



山尾が働いていた頃にネイピア造船所で建造された船の写真が今も残る＝グラスゴー大学史料室で

ロンドンの約550キロ北、グラスゴー。20世紀前半まで同市は世界最大の造船地域だった。中心部を流れるクライド川流域に三、四十の造船所が集まり、最盛期には建造量は世界の半分を超えたという。

1866(慶応2)年、長州ファイブの一人、山尾庸三はロンドンで仲間と別れ、同市のネイピア造船所で働きながら造船技術を習得した。

グラスゴー大学のトニー・スレーベン教授(66)＝ビジネス史＝によると、同

造船所は当時、最新の蒸気エンジンと鉄製の船体を造り、技術者養成もしていた。「12歳くらいから徒弟工を受け入れ、8年ほどで自分で造船所を開けるほどの知識が備わったという。山尾も造船のすべてを学ぼうとしたのでしょう」

× ×

山尾は2年後、造船所で使ったのこぎりやカンナを手に帰国した。身につけた技術は最新の工学技術の集積だった。行政と教育の両面で、日本に本格的な工学技術を根付かせようと考えた。

約1年間、海軍局で造船学を教えたのち、横須賀製鉄所に船の建造や修理用のドックを作る事業を進めた。71年には工学技術全般を学ぶ工学寮(現・東京大学工学部)を創立。80年に工部省のトップに就いた。

現在、家電からロケットまで製造する三菱重工も始まりは造船業だ。下関市にある同社の下関造船所は1914(大正3)年創業。顧問の碓崎(かきざき)貞雄さん(61)は山尾をこう評価する。

「多くの若い技術者を教育し、大学生と企業が同じ土俵で研究開発をする素地をつくった。これが日本の急激な技術革新につながったのです」

× ×

グラスゴーのクライド川沿いを歩くと、「ネイピア通り」と小さな標識が見つかった。ネイピア造船所があった場所だ。いまは住宅地に変わり、古いドックが使われずに残ったままだ。

ここで生まれ育ったタクシー運転手のジェラルド・マクレディーさん(51)は「小さいころはまだ造船所がいくつもあり、大きな音が聞こえた」と懐かしげに話す。

18世紀の産業革命で世界の工業を

地域情報

列島ニュース一覧

- 北海道
- 青森
- 森
- 岩手
- 宮城
- 秋田
- 山形
- 茨城
- 福島
- 栃木
- 群馬
- 千葉
- 茨城
- 埼玉
- 東京
- 神奈川
- 新潟
- 富山
- 石川
- 福井
- 長野
- 山梨
- 岐阜
- 三重
- 滋賀
- 京都
- 大阪
- 兵庫
- 和歌山
- 鳥取
- 徳島
- 香川
- 愛媛
- 高松
- 福岡
- 北九州
- 熊本
- 大分
- 宮崎
- 鹿児島
- 沖縄
- USA

新聞購読案内

- ▶ データベース案内
- ▶ ケータイ向けサービス
- ▶ ニュース映像
- ▶ 会員サービス
- ▶ 朝日新聞社から
- ▶ 今日の朝刊

牽引(けんいん)した英国だが、グラスゴ
ーの造船業はその面影はほとんどない。

日本の造船業も1960年代まで栄え
たが、その後は不況に見舞われた。中国
や韓国の安い労働力に押され、下関造船
所の従業員も最盛期の3分の1程度だ。

だが、その技術は幅広い分野に今も
息づく。

× ×

色とりどりの魚が水槽内をゆっくり泳
ぐ。下関市立水族館・海響館。造船と一見
無縁そうなこの場所で、造船に不可欠な
流体力学の応用を見ることができる。船
が進む水の抵抗を小さくするための水流
研究を利用した。

「水槽内の底面に沈殿したゴミが巻き
上げられないよう、ゆるやかな水の流れ
を起こす。水族館では水をきれいに見せ
ることが大切ですから」と三菱重工下関造
船所船舶・海洋部の樋口哲朗さん(54)
が教えてくれた。

ほかにもある。水槽内の温度調節には船のエンジンを海水で間接的に冷やす冷却水の配
管技術を使っている。「造船技術なしに水族館は語れません」と樋口さん。

「技術転用はまだ続く。山尾が持ち帰った140年前の技術は、形を変えながらしっかりと根
付いています」。碓崎さんは話した。

(1/19)

▲⑤山尾庸三／造船所の体験 聾唖教育に>>



配管がめぐる海響館の舞台裏を見回る樋口さん。水槽の
反対側の見学者から姿は見えない＝下関市立水族館海
響館で

| 社会 | スポーツ | 経済 | 政治 | 国際 | サイエンス | 文化・芸能 | ENGLISH |

ニュースの詳細は朝日新聞へどうぞ。購読の申し込みはインターネットでもできます。

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

| 著作権 | リンク | プライバシー | 広告掲載と注意点 | アサヒ・コムから | 朝日新聞社から | 問い合わせ |

Copyright 2004 Asahi Shimbun. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.